

1 時限目 なんで投資するの？

小学校では、投資を行うに当たってあらかじめ認識しておきたいことを学んでいきます。当然のことと思われることがたくさん出てきますが、非常に重要なことばかりです。こんな時どうしたらいいか？ということより、知っておくべきことが中心になりますので、しっかりと身に着けるようにしましょう。さて本題です。

投資家はなんで投資をするのでしょうか？

そう問いかけると全ての人が利益を取りたい！運用益を出したいから・・・十中八九そういう答えが返ってくるでしょう。

でも現実はどうでしょうか？その目的を達成できているのでしょうか？

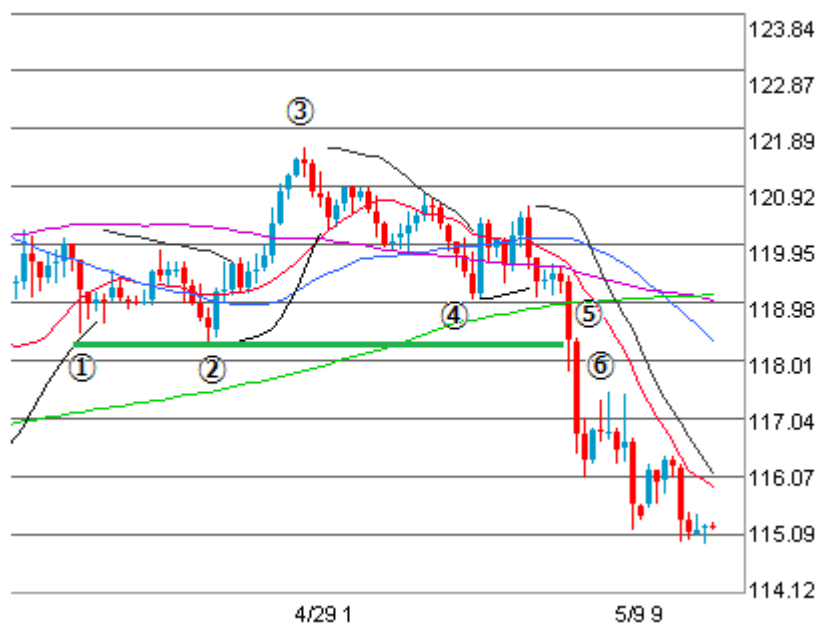
答えは「No！」であり中には「Yes！！」という投資家の方もいるでしょう。

「Yes」のひとはマーケットの分析力が優れているから？「No」の人は初心者だから？確かにそれらも結果に対する一つの要因かもしれませんが、絶対条件ではないはずです。事実、初心者の人は利益が全く取れないということもないですし、経験も長く分析力もすぐれている投資家が必ず利益を獲得しているとも限りません。

元々マーケット自体には確実なものなど何もないわけですから、絶対利益が取れる！絶対もうかるなんてものはどこにも存在しないのです。

では投資はギャンブルと同じで売るか買うかであとは運任せの世界なのでしょうか？それも明らかに違います。マーケットには節目があったりトレンドが存在したりしています。それをどのように活用するかで勝ち負けが決まってしまうといっても過言ではないでしょう。

たとえば下の例を見てください。



これは2011年春のユーロ円のチャートになります。

これは118円手前に強いサポート（下値支持）が存在していた後、これをいったんブレイクすると下値を走らせた例です。

ポイントとなる局面に場番号を振ってみました。

- ① 直近の安値を達成した局面です。当然前の商状は存在するのですが、ここでは考えないことにします。単純に押し目買いをしてもよい局面です。
- ② この局面でも安値が直近の安値①を固辞された直後に買いに回ってもよい局面です。
- ③ ②から③に移る過程であらかじめ利益確保の値幅を決めている人は、その値幅が示現した時点で利益確定となります。
- ④直近の安値④を割り込んだ時点でマーケットの地合いの弱さを感じ取れる局面です。しかも3度目の安値トライとなっていることで、買い持ちをしている人は決済。もしくは途転売りに回る局面です。これができる人は上級者といえますが、ある意味ギャンブルともいえます。今回は下抜けていますが、緑色のライン抜けきらない場合は即座にポジションを決済する必要があります。
- ⑥この例で一番重要な局面です。①、②と経て3度目の安値トライの局面で完全に下抜けてしまいました。この時点では買いポジションを持っている人は決済すべきです。決済できずに持ち続けてしまう、我慢を選択するような人は、今回持ち直せたとしても、いつかは大きな資産を失い運用不能に陥る可能性が大きいといえます。

少し突っ込んだところまで解説しましたが、一番重要なことは⑥の局面では決して買い持ちをしてはいけないということです。

マーケットは、売り買いのバランスが崩れた時点で価格が変動します。買い手が多ければ価格は上昇し、売り手が多ければ下落します。つまり①および②の局面では買い手のほうが多く118円近辺が固辞され一旦は上昇しています。その後の展開で売り手が増し⑤および⑥の局面を迎えています。当然のことながら①、②で買った人もコスト割れを避けたいと考えますので⑥の局面では決済の売りも出てきます。その結果として売り買いのバランスがさらに崩れ下値を走らせることになるのです。

最初的话题に戻りますが、このような⑥の局面で買い持ちを継続して（一時的であるかもしれませんが）損失を算出しなければならぬような運用を継続していれば、投資を行う当初の目的である利益を計上したい！運用益を上げたいという結果には結びつきはしないでしょう。

当然テクニカル的な要素も重要ですが、損失を極力少なくするということが重要なよそになってきます。それは新規売り買いの局面を模索する以上に重要なことなのです。

マーケットには様々な要素が価格に集約されています。テクニカルズであったりファンダメンタルズであったり内部要因であったりします。極論を言ってしまうえば新規の売り買いは適当に行ってもそのあとのポジションコントロールであったり、リスクマネジメントさえしっかりしていれば、少なくとも

大きな損失を被ることや運用が継続できなくなることはまず起きないことでしょう。

投資家は誰しもが、上がると思うから買う、下がると思うから売るという行為を行うのですが、それが必ずしも正しいとは限りません。ところが多くの人には自分が判断したことは必ず正しいと思いがちです。ましてや自分の考えが間違っていると認めたくなくて、さらに損失を実現化することは非常に困難なことであるともいえます。一回一回の売買の勝ち負けにこだわってしまい最終的な目的が達せられないことになっては元も子もありません。

最終的な運用目的は運用益を上げるということで決して売買の勝率を競っているわけではないのです。たとえ二勝八敗の勝率でも最終的に運用益が残ればそれでよいのです。売買を行ううえで「なぜ投資をしているのか？」そのことを常に頭の片隅に置いておくことが優れた投資家になるための必要な要素であるといえるでしょう。